



# JSHCT Letter No.73

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

一般社団法人日本造血細胞移植学会

January 2019

## 目次

第41回日本造血細胞移植学会総会のご案内 .....	ii
認定・専門医制度委員会からの報告とお知らせ .....	iii - iv
看護部会企画	
「第23回APBMT (The Asia Pacific Blood and Marrow Transplantation) への参加報告」 .....	v
私の選んだ重要論文 .....	vi
施設紹介「兵庫県立尼崎総合医療センター 血液内科」 .....	vii - viii
各種委員会からのお知らせ .....	ix

## 第41回日本造血細胞移植学会総会のお知らせ

会期：平成31年3月7日(木)～9日(土)

会場：大阪国際会議場



第41回日本造血細胞移植学会総会 総会会長 井上 雅美  
(大阪母子医療センター 血液・腫瘍科 主任部長)

新年明けましておめでとうございます。本年が良き年であることを祈っております。

私どもは、第41回日本造血細胞移植学会総会(大阪)開催準備を鋭意進めております。多数の一般演題応募、有り難うございました。小児、思春期・若年成人(AYA世代)をテーマとする演題も多数応募頂き、小児科医である会長として大変嬉しく感じております。おかげさまで、セッション構成が整いつつあり全体の枠組みがほぼ完成致しました。座長依頼に快く応じて頂いた評議員の皆様にお礼申し上げます。

会長シンポジウム「移植後の子どもを支える」をはじめ、「Haplo/Cord transplant expecting immunological effect」、「Immunotherapy as an alternative or assemblage of transplant」、「Basic science in cellular medicine」、「JSHCT-KSBMT Joint Symposium」のシンポジウム企画については、国内・海外招聘講師に今回のテーマ「Moving Forward with a Scientific Mind」に相応しいホットトピックスをご紹介頂くようお願いしておりますので、乞うご期待です。

今回、ポスターセッションに新企画を導入しました。選抜したポスター演題についてRapid Fire Presentationを行います。1分間という短時間で1枚のスライドで筆頭演者にご発表内容についてご紹介頂き、ポスター前での意見交換・議論を盛り上げたいという狙いです。多数ご参集頂き、Rapid Fire Presentation会場が熱気に包まれることを期待しております。

移植医療の発展には多職種・多部門によるチーム医療の充実が必須です。医師演題だけでなく、看護、HCTC、コメディカルの演題も充実しております。移植に関わるすべての職種の皆様に本学会に参加して頂き、意見交換、議論、交流を深めて頂きたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

会員懇親会では大阪下町を肌で感じて頂ける出し物を用意しております。賑やかで楽しい学会にしたいと思っておりますので、ご期待下さい。ドレスコードをビジネスカジュアルと致します。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

The 41st Annual Meeting of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation  
第41回日本造血細胞移植学会総会

Moving Forward with  
a Scientific Mind

会期 2019年 3月7日(木)～9日(土)  
会場 大阪国際会議場 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51  
会長 井上 雅美 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 血液・腫瘍科 主任部長

<http://convention.jtbcom.co.jp/jshct2019/>

総会事務局 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 血液・腫瘍科内 〒594-1101 大阪府和泉市宝塚町8-40  
運営事務局 株式会社JTBコミュニケーションデザイン ミーティング&コンベンション事業部 〒105-8335 東京都港区芝3-23-1 セレスティン芝三井ビルディング13F TEL: 03-5657-0610 FAX: 050-3730-3977 E-mail: jshct2019@jtbcom.co.jp

## 認定・専門医制度委員会からの報告とお知らせ

認定・専門医制度委員会委員長 田中 淳司

### ■ 第41回学術総会における認定医企画について

#### 1) 認定医申請のための教育セミナー

例年の通り、以下の5分野10単位分のセミナー開講を予定しています。

No	テーマ	細目	講義日時	演者 ※敬称略
①	(A)同種造血幹細胞移植の 適応とドナーの選択	成人	3月7日(木) 14:30~15:00	名和 由一郎
②		小児	3月7日(木) 15:00~15:30	今泉 益栄
③	(B)移植後の拒絶と移植 片対宿主病	移植片の拒絶・生着不全 とその対策	3月7日(木) 15:45~16:15	諫田 淳也
④		GVHDの診断と治療	3月7日(木) 16:15~16:45	内田 直之
⑤	(E)移植前処置の選択	成人	3月7日(木) 17:00~17:30	金森 平和
⑥		小児	3月7日(木) 17:30~18:00	松本 公一
⑦	(C)拒絶・移植片対宿主病 以外の移植後合併症	感染性合併症	3月9日(土) 10:10~10:40	大西 康
⑧		非感染性合併症	3月9日(土) 10:45~11:15	大和田 千桂子
⑨	(D)骨髄・末梢血幹細胞 の採取と処理、ドナーの 安全性と管理	骨髄	3月9日(土) 12:40~13:10	小林 寿美子
⑩		末梢血	3月9日(土) 13:15~13:45	黒澤 彩子

#### 2) 認定医更新セミナー

過年度を踏襲し、下表の通り、教育講演10講演、シンポジウム3講演、プレナリーセッション1講演に更新単位を付与する予定です。

対象講演	付与 単位	日時(予定)	対象講演	付与 単位	日時(予定)
シンポジウム1	2	3月8日(金) 8:30~10:40	シンポジウム2	2	3月9日(土) 9:00~11:10
教育講演1	1	3月8日(金) 8:30~9:00	プレナリーセッション	1	3月9日(土) 12:30~13:00
教育講演2	1	3月8日(金) 9:05~9:35	シンポジウム3	2	3月9日(土) 13:00~14:50
教育講演3	1	3月8日(金) 9:40~10:10	教育講演9	1	3月9日(土) 13:30~14:00
教育講演4	1	3月8日(金) 10:15~10:45	教育講演10	1	3月9日(土) 14:10~14:40
教育講演5	1	3月8日(金) 14:45~15:15			
教育講演6	1	3月8日(金) 15:20~15:50			
教育講演7	1	3月8日(金) 15:55~16:25			
教育講演8	1	3月8日(金) 16:30~17:00			

**<留意事項>**

- ・同時時間帯に並行して開催されている更新セミナーから、重複して単位を取得することはできません。
- ・更新セミナーは、開始から終了まで通して聴講した場合のみ単位が付与されます。

**3) 新規認定医口頭試験**

学会会場にて、3月7日(木)午後、面接官2人に対し受験者1名、1名につき約15分間の設定で実施する予定です。

**■ 2019年度の認定医更新手続きについて**

来年3月に初めて実施される認定医の更新手続きについては、以下のスケジュールを予定しています(更新対象者は374名)。

**<認定医更新手続きスケジュール>**

- 2月上旬：対象者に更新手続きのご案内(メール)
- 3月上旬：申請受付開始(41回総会終了後)
- 3月下旬：申請受付終了
- 4月上旬：担当委員会による書類審査
- 4月下旬：審査結果確定
- 5月上旬：認定証送付

**<2019年度の更新対象者>**

認定期間が「2019年3月31日」までの方(認定医番号(6桁)の上2桁が「25」の方)

※認定期間、認定医番号については認定証をご確認ください。

認定医の更新条件、申請様式等は学会HP下記のページをご確認ください。

[https://www.jshct.com/modules/occupation/index.php?content\\_id=7](https://www.jshct.com/modules/occupation/index.php?content_id=7)

## 看護部会企画

## 第23回APBMT (The Asia Pacific Blood and Marrow Transplantation) への参加報告

看護部会／国際委員会 山花 令子

11月2-4日に台湾で開催されたAPBMTに参加してきました。日本から5つの看護の演題が発表され、そのうち2つは日本造血細胞移植学会看護部委員会が主催しているLTFU看護師研修のプログラム評価と研修参加者の皆様にご協力いただいたアンケート結果の一部を造血細胞移植学会看護部会メンバーで発表してきました。LTFU看護師研修のこれまでの経過やプログラム評価についての口演では、LTFU看護師育成に関することだけでなく、LTFUの体制や多職種連携についてなど、他国参加者から様々な質問があり、LTFUへの関心の高さと看護師の役割の意義を実感しました。

この学会は、韓国、シンガポール、中国、インド、台湾、日本の看護グループで毎年テーマを決めてシンポジウムを開催しています。今年は「GVHD」をテーマに各国が発表しました。日本からは国立がん研究センター中央病院の吉田千香さんがGVHDにおける看護師の役割について、患者教育とセルフケア支援の実際を中心に発表しました(写真1)。シンポジウムでは、各国の看護の特徴が発表され情報交換の場となりました。



(写真1)



(写真2)

来年は「感染管理(特に防護環境・カテーテル管理)」と「LTFU」の2つのテーマで看護のセッションが開催予定です。是非、ご施設の取り組みを発表していただけたらと思います。次回は、韓国の釜山で8月29日～9月1日に開催となります。

今回の学会では、学会初日の夕方のレセプションが同会場で開催され、無料で似顔絵を描いてくれたり、切り絵をしてくれたり、一味違った交流もありました。学会期間中はスタンプラリーでPCキー

ボードをもらえる企画など、アトラクションが盛り沢山ありました(写真2)。

ハードルの高い海外学会ではありますが、造血細胞移植に取り組む看護師との交流は、言葉を超えて分かり合えることも大きいと感じると思います。是非、次回の韓国に行きましょう！

## 私の選んだ重要論文

Basic oral care for hematology–oncology patients and hematopoietic stem cell transplantation recipients: a position paper from the joint task force of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer/ International Society of Oral Oncology (MASCC/ISOO) and the European Society for Blood and Marrow Transplantation (EBMT).

Elad S, Raber–Durlacher JE, Brennan MT, Saunders DP, Mank AP, Zadik Y, Quinn B, Epstein JB, Blijlevens NM, Waltimo T, Passweg JR, Correa ME, Dahllöf G, Garming–Legert KU, Logan RM, Potting CM, Shapira MY, Soga Y, Stringer J, Stokman MA, Vokurka S, Wallhult E, Yarom N, Jensen SB.

Support Care Cancer. 2015 23 (1): 223–36. doi: 10.1007/s00520–014–2378–x.

化学療法および造血細胞移植を受ける血液腫瘍患者は口腔合併症を呈するリスクが高く、この合併症で死亡につながる可能性をも有する。本論文は化学療法あるいは造血細胞移植の施行前、施行中および施行後における基本的な口腔ケアの重要性を示している。口腔合併症の管理にあたり、科学的な論拠で支持されるものがある一方、現在における最適な指針を作成するためには専門家の意見に依る必要もある。この臨床指針は、Multinational Association of Supportive Care in Cancer/ International Society of Oral Oncology (MASCC / ISOO) の Oral Care Study Group および European Society for Blood and Marrow Transplantation (EBMT) のメンバーにより、医療関係者を対象として作成された。この臨床指針は、基本的な口腔ケアに関する指針について、感染管理、疼痛管理、口腔機能の維持、がん治療による口腔合併症の管理および生活の質の改善を項目とし、概説している。医療関係者を支援するための基本的な口腔ケアに関する実用的な指針である。

少々古いのですが、おそらくこの指針の存在をご存知の方は少ないのではないかと思います、紹介させていただきます。造血細胞移植医療にあたって口腔衛生管理と口腔粘膜障害対策は不可欠であり、基本的な口腔ケアの重要性は言うまでもありません。しかし、あまりに基本的なものであるが上に、ネガティブコントロール(非施行群)を設定するようなエビデンスレベルが高い研究を行うことが実際的にも倫理的にも不可能であり、ガイドラインの論拠となるような研究は少ないのが現状です。このような背景から、MASCC / ISOO の Oral Care Study Group および EBMT は共同で、エビデンスベースに加え専門家の見解を交え、プラクティスレベルの実践的な臨床指針を発表しています。この作成過程には私も関わりました。

本臨床指針は看護師さんにもとても役立つものであると思います。ただ、英語の壁が立ちほだかることと思います。また、日本の実情に即したほうがよさそうな内容もあります。そこで、現在、日本造血細胞移植学会と、私が理事長を務めます日本がん口腔支持療法学会が共同で指針を作成中です。慶應義塾大学医学部血液内科の森毅彦先生に多大なご尽力を賜っております。造血細胞移植医療の特色の一つはチーム医療が極めて進んでいることのように感じます。歯科医師が造血細胞移植医療にかかわり、このコーナーを執筆させていただく機会を頂いている時点で、なかなかあり得ないことのように思います。本邦の造血細胞移植医療の質をより高くするため貢献できればと考えております。

岡山大学病院 医療支援歯科治療部 曾我 賢彦

## 施設紹介

## 兵庫県立尼崎総合医療センター 血液内科

渡邊 光正

当院は、2015年7月1日に、兵庫県立尼崎病院と塚口病院が合併した730床の病院です。兵庫県の東端で、阪神梅田より10分、JR大阪より5分で尼崎駅に着きます。そこからバスで10分位の非常に便利な位置にあり、阪急塚口駅からも同様にバスで10分位と、阪神間の全路線より通院が可能です。

近隣の移植病院は、東は大阪赤十字病院、大阪市立大学病院、北野病院など大阪の中心的な病院があり、西は兵庫医科大学病院、神戸中央市民病院、神鋼記念病院、神戸大学病院など、兵庫の中心的な病院があり、

当院は、阪神間から兵庫県北部の広範な地域からも患者様を受け入れております。

2012年より同種造血幹細胞移植を開始し、新病院開院よりクリーンルームを12床に増床し、無菌病棟を新設しました。また、2016年度より臍帯血移植および骨髄バンク移植の認定施設になり、本格的に移植病院として稼働し、同種造血幹細胞移植を2017年度は12例(近親者1例、骨髄バンク7例、臍帯血4例)、自家末梢血幹細胞移植を3例、2018年度はPTCyハプロ移植を導入し、18例(近親者7例、骨髄バンク5例、臍帯血6例)、自家末梢血幹細胞移植を6例施行しております。対象年齢は70歳位までで、高齢者でも良好な経過を辿っております。

常時40名前後の入院患者様を受け入れ、その大部分は急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群です。

血液疾患に関わる検査を検査部の多大なる協力の元、院内で行い、細胞表面マーカー、細胞遺伝学検査(PCR解析、シークエンサーによる遺伝子変異解析)、網羅的ウイルスPCR、移植後キメリズム解析なども院内で行う体制を築き、疾患の診断および治療効果判定などを迅速かつ正確に行っております。さらに今年度より8カラーの細胞表面マーカー解析を導入し、多発性骨髄腫のMRD解析を行います。

これらにより、2017年度は4名のスタッフでしたが、2018年度より3名の専攻医を含む9名体制で、充分に対応ができるようになりました。

チーム医療も積極的で、医師、看護師、薬剤師、栄養師、リハビリ師、検査技師、地域医療連携担当など、多職種が関わることで、入院前から入院中、そして退院後まで円滑に行っております。念願のHCTCも今年度に誕生する予定で、最終的には3人にすることで、負担を軽減するとともに、綿密な関わりを担ってもらう予定としております。

治療の進化が非常に速い領域である血液内科治療・造血幹細胞移植医療の楽しさを、是非学生さんや若い先生に興味を持って頂き、将来の血液内科医・移植医を沢山育てることが、当院





病棟スタッフ



血液内科

の使命とっております。全国レベルで血液内科医が非常に不足しているのが現実で、血液内科医が診るかどうかで、血液疾患の患者さんの予後は全く変わります。居住地域での医療格差を減らすことも重要と考えられます。

当院が少しでも、この領域で貢献できればと思っておりますので、宜しく願い申し上げます。

## 各種委員会からのお知らせ

### 【移植施設認定委員会】

本委員会における直近の検討事項、決定事項について以下の通りご報告します。

- 1) 2018年4月以降、旧基準からの経過措置として臍帯血移植のみ施行可能としてきた“LVCみなし診療科”の取り扱いを同年9月末日をもって終了しました。
- 2) Low volume center (LVC) における非血縁者間造血細胞移植を施行するための申請について、申請の流れ、様式、記載の注意事項等を学会HPにまとめ周知するとともに、各LVC診療科の責任医師宛にメールにて通知することとしました。
- 3) 現在、日本骨髄バンクHPおよび本学会HPに掲載されている移植認定診療科情報を今後、学会HPに集約化することを決定し、集約にあたってどのような内容を掲載すべきかについては広報委員会と検討していくこととしました。
- 4) 自己末梢血幹細胞採取における死亡事例のあったLVC認定診療科に対する委員会の対応として、事故の詳細と今後の対応策について、学会への報告書提出を求めることを決定し、報告書の内容に応じてサイトビジット等さらなる対応が必要か否かを検討することとしました。
- 5) 移植施設認定委員会としての造血幹細胞の不適切な使用に対する対応策についての審議を継続しました。

委員長 岡本 真一郎

日本最大級! 100社が次世代技術・新製品を出展

# 第5回 再生医療 産業化 展 大阪

研究・治療・創薬のための製品・サービスが出展

会期: 2019年2月20日 [水] ~ 22日 [金] 10:00~18:00  
22日 [金] のみ 17:00 終了 会場: インテックス大阪 主催: リード エグジビション ジャパン (株)

細胞治療・iPS創薬・法規制など最新動向セミナー 80 講演 事前申込制

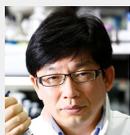
(講師 一部紹介)



慶應義塾大学  
医学部 生理学教室 教授  
岡野 栄之



FUJIFILM Cellular Dynamics, Inc.  
Chairman and CEO  
佐竹 舎巳



京都大学  
iPS細胞研究所 教授  
高橋 淳



山口大学大学院  
免疫学講座 教授  
玉田 耕治



厚生労働省  
大臣官房審議官 (医薬担当)  
森 和彦



サンバイオ (株)  
代表取締役社長  
森 敬太



大日本住友製薬 (株)  
再生・細胞医薬神戸センター長  
岸野 晶祥

セミナーのお申込み・詳細 ▶ <https://www.regenmed.jp/seminar/>

※敬称略、講師、プログラムが変更になる場合がございます。なお、掲載枠上 講師の役職所属を省略している場合もございます。

## JSHCT事務局より

### ● ご登録いただいているメールアドレスについて

本学会では、皆様に対する各種ご案内の多くをEメールにて配信しておりますが、昨今、アドレス変更の届出漏れが多く、メールが不達となる会員の方も多数みられます。一定期間、事務局からのメールが届いていない方は、一度、事務局（[jshct\\_office@jshct.com](mailto:jshct_office@jshct.com)）までお問合せくださいますようお願い申し上げます。

### ● 本学会会員情報へのご登録内容変更につきまして

ご勤務先の変更等に伴いご住所、メールアドレス等本学会会員情報へのご登録内容に変更がございましたら、Eメール、FAX等にてお早目に事務局までお知らせください。

一般社団法人日本造血細胞移植学会 事務局

名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学医学部内 (〒461-0047)

Tel: 052-719-1824 Fax: 052-719-1828 E-mail: [jshct\\_office@jshct.com](mailto:jshct_office@jshct.com) <http://www.jshct.com>